

“不審者から身を守る方法を自分で考えて「逃げられる子ども」に”

～チャイルドディフェンス事業を通じた子どもの危機対応能力育成～

河内長野市教育委員会学校教育課



本市教育委員会では、昨年11月の広島市、12月の栃木県今市市で起こった下校途中での小学1年生の児童誘拐殺害事件を受けて、全ての市立小学校14校の1年生児童及びその保護者を対象に緊急の子どもの安全対策事業として、“チャイルド・ディフェンス・ワークショップ”を実施しました。このワークショップは、子どもが不審者に遭遇した時に、パニックにならないで、どうすればいいかを考え、対処法を学んでもらおうとするものです。昨年度の緊急安全対策事業を受け、今年度はさらに対象を広げ、小学1、2年生及びその保護者を対象に、5月から6月にかけて実施する予定です。このワークショップで講師を務めるのはNPO法人「人権教育啓発センターKEF」（森良子代表）のメンバーです。

「大人は『危険だから』と言って子どもの行動範囲を狭めがちですが、子どもの成長に一人での行動は不可欠です。だから、不審者に遭って怖い思いをした時、子ども自身がどうしたらいいか、その方法を学ぶことは子どもの不安を減らすことになり、その結果『逃げられる子ども』になります。そんな子どもを増やすためのお手伝いをしたいと思い、警察にアドバイスをいただいて活動を始めました。」と森

さんはきっかけを話してくれています。

以前は子どもだけを対象としたワークショップを開いていたが、その情報が親や教師など大人にきちんと伝わっているのかが気になっていたと森さんは次のように話をしてくれました。

「チャイルド・ディフェンス・ワークショップ」というプログラムを生み出したんです。このプログラムの特徴は、子どもだけでなく保護者や教師、地域の人も入って学べる点です。大人と子どもと一緒に体験することで共通の知識を得ることができ、しかも年齢に応じたメニューを用意しているので、学年ごとに段階的に学ぶことができます。」

学校で子どもたちを対象に行われるワークショップでは、「人権教育啓発センターKEF」のメンバーが寸劇などを通じて、また、その際学校の教員なども参加しながら子どもたちに安全確保の方法を指導しています。この時大切なのは、できるだけ具体的な事例を挙げて説明することだとメンバーの方々は考えています。

「子どもは日ごろから、『人には親切にしてください』とか『物は大切に使いなさい』とか言われています。だから、不審者に襲われそうになってもなかなか抵





抗することができません。だから、本当にピンチの時は『火事でなくても“火事だ！”と叫んでもいいんだよ』とか『ランドセルをつかまれたら放り出して逃げたらいいんだよ』というふうに具体的な方法を教えるようにしています。』

そして、もう一つ大切なことは大人の対応だと森さんは強調しています。

「ワークショップでは、子どもに『怖い目に遭ったら、その人の服装や背の高さ、持っている物、車の形、色、ナンバーなど、とにかく覚えていること全部伝えてください。もしかしたら間違っているかも、なんて思わないで』と言っています。でも、上手に話すことなど大人にも無理。ましてや恐怖で怯えてしまった子どもはそうです。」

だから、子どもが勇気を出して怖い体験を話してきたら落ち着いて聞いてあげてほしいのです。もし大人の側もパニックになってしまうと、子どもは『こんな目に遭った自分悪いんだ』『話さなかった方がよかった』などと思い、口を閉ざしてしまいます。

大人が冷静に聞いてあげることで、その後の対処の仕方や子どもの心理的回復の度合いが変わってきます。』

このワークショップを受けて子どもたちの行動が、どう変わったかを検証するのはまだ難しいのですが、しかし、子どもたちと一緒にこのワークショップに参加した保護者の意識は確実に前進していると思われることから、そんな保護者の感想の一部を掲載します。「お芝居じたてにわかりやすく見させて頂いたので、子どもたちにとっても良かったように思います。もし不審者が現れた時、見た時、どういう事をすればいいのか勉強になりました。不審者がどういう人だったのか一瞬のうちに記憶できるか、時々大人も子



どもと一緒に考えてみてもいいなと思いました。また、ぜひ、高学年の場合の対応も教えて頂ければ嬉しいです。本当に子どもたちのためにも、私たち大人が頑張って、安全な地域作りを心がけたいと思わされる時間でした。」

「具体的に指導してもらえたので、1年生にも分かりやすく感じました。子どもたちが、ハッと気づく場面や、教えてもらう場面もあり、良かったです。1回だけでは、体で分かることが難しいので、学校でも教え、家庭でも教え、学校以外の方にも教えてもらい、という繰り返しはとても大切だと思います。」

他にも様々な感想等がありましたが、その中から浮かび上がってくる課題としては、このワークショップが単発で終わってしまっただけでは、子どもたちへの効果が期待できにくいことではないでしょうか。また、子どもたちの危機対応能力を育てると同時に、保護者・地域・学校・行政が連携して子どもの安全確保に関する取組を進め、不審者の入り込めないようなまちづくりをしていくことが必要であると考えます。

<問い合わせ>

河内長野市教育委員会学校教育課

TEL：0721-53-1111

